統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

日本における統計学の発展

別　　巻

1/12
26043

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

T 02
N 69
別巻

昭和５５・５６・５７年度
科学研究費補助金総合研究（A）研究成果報告書

1. 課題番号　53301

2. 研究課題　日本における統計学研究の発展

3. 研究代表者　統計数理研究所
附属統計技術員養成所長　西平重喜

4. 研究分担者

一橋大	経済研究所教授	江見康一
大阪大	基礎工学部教授	丘本正
九大	経済学部教授	大屋祐雪
統数研	養成所主事	坂元慶行
東大	経済学部教授	鈴木雪夫
東北大	経済学部教授	竹内清
京大	経済学部教授	野沢正徳
立教大	経済学部教授	広田純
統数研	第３部長	藤本熙
帝京大	経済学部教授	松下嘉米男
筑波大	社会学類長教授	三潴信邦
法政大	経済学部教授	森博美
北大	理学部教授	山元周行

5. 研究経費

昭和55年度	6,０００千円
昭和56年度	4,０００千円
昭和57年度	2,０００千円

26043

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

6. 研　究　発　表

ア　学　会　誌　等

西　平　重　喜（1983投稿予定）

「日本における統計学研究の発展」

統計数理研究所研究彙報

イ　口　頭　発　表

三　猪　信　邦

「日本の統計行政」

経済統計研究会（予定）

7. 研　究　成　果

(1) 研　究　目　的

統計学は多くの学問分野と関連があるだけでなく，官庁統計などの実査，製表や，各種データの利用，分析などにも深い関係がある。このため統計学研究者の出身や経歴もヴァラエティに富む。そしてまた最近では，理論面の急激な発展により，データ作製者との距離が大きくなってきた。そこで，いままで，日本の統計学発展に貢献された，各方面の諸先輩をインタビューし，速記録を作製し，相互の交流をはかり，今後の統計学研究のための共通のプラットフォームをつくりたいと考え，この研究を実施した。

(2) 研　究　計　画

当初，数回にわたり，研究分担者およびその一部が会合し，話し手の候補をあげた。つぎにそれらの話し手に適当な，聞き手を選らび，聞き手を通じて話し手の承諾を得ることにした。

インタビューは速記者により速記され，またテープに録音する。

起こされた速記録はそのままオリジナル速記録として保存する。このオリジナル速記録のコピー一部をつくり，話し手，聞き手に，加除修正を自由にしてもらい，これを清書する。

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

この清書のコピーをつくり，話し手，聞き手のほか適宜配布し，さらに公開する。

(3) 研 究 の 結 果

1. 当初は３０人の話し手を予定したが，候補者は６０人以上に達した。計画中，数人の方が急逝されたほか，１人の例外をのぞき，インタビューが実現し，５４冊（ほかに別巻１冊）の速記録が完成した。
2. この５５冊は統計数理研究所図書室に，１セット保管され，だれでも閲覧することができる。
3. さらに希望者は，清書のコピーを入手することもできる(実費負担)。この清書は

〒102　千代田区富士見町２－17－1
法政大学　日本統計研究所

に保存される。担当者は 森　博美。

4. またオリジナル速記録，校閲された速記録，録音テープも，日本統計研究所に保存される。しかしこれらは，話し手，聞き手などの関係者の承諾がないかぎり，公開されない。

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

巻数順一覧表

巻	話し手	ページ数	巻	話し手	ページ数
1	佐藤良一郎	89	28	小河原正巳	45
2	寺尾琢磨	75	29	丸山博	115
3	宗藤圭三	50	30	曽田長宗	156
4	美濃部亮吉	42	31	瀬木三雄	82
5	米田桂三	57	32	安藤次郎	54
6	河田龍夫	38	33	伏見康治	41
7	小川潤次郎	58	34	田島一郎	32
8	島津一夫	29	35	鈴木諒一	22
9	柴田武	49	36	伊大知良太郎	22
10	牧田稔	37	37	上杉正一郎	158
11	青盛和雄	130	38	米沢治文	85
12	浅野忠允	31	39	森田優三	93
13	医学グループ	73	40	柴田銀次郎	38
14	兼子宙	20	41	郡菊之助	26
15	北原一身	129	42	山田勇	33
16	河合三良	48	43	鮫島龍行	57
17	杠文吉	50	44	小田原登志郎	58
18	山中誠之	93	45	後藤正夫	92
19	高橋正雄	86	46	小山栄三	35
20	近藤康男	58	47	北川敏男	97
21	中川友長	41	48	坂元平八	69
22	林知己夫	138	49	松下嘉米男	46
23	H.パッシン	37	50	水野担	155
24	高木秀玄	17	51	大橋隆憲	94
25	正木千冬	57	52	久我通武	104
26	鈴木清	21	53	木村太郎	101
27	黒田俊夫	66	54	内海庫一郎	148
			別巻	(この成果報告書)	57

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

内 容 別 一 覧 表

A　戦前，日本統計学会創立などについて

1 佐藤，2 寺尾，3 宗藤，21 中川，38 米沢，39 森田，40 柴田，41 郡，42 山田

B　戦中，統計数理研究所創立などについて

1 佐藤，5 米田，6 河田，7 小川，8 島津，10 牧田，14 兼子，19 高橋，22 林，42 山田，47 北川，48 坂元，49 松下，50 水野

C　戦争直後，統計行政，官庁統計などについて

4 美濃部，16 河合，17 杠，18 山中，19 高橋，20 近藤，25 正木，29 丸山，30 曽田，31 瀬木，32 安藤，36 伊大知，37 上杉，39 森田，42 山田，43 鮫島，44 小田原，45 後藤，50 水野，51 大橋，52 久我，53＝54 木村・内海

D　経済学などについて

2 寺尾，3 宗藤，4 美濃部，24 高木，25 正木，35 鈴木，36 伊大知，37 上杉，38 米沢，39 森田，40 柴田，41 郡，42 山田，43 鮫島，48 坂元，51 大橋，53＝54 木村・内海

E　厚生，医学などについて

13 医学グループ，29 丸山，30 曽田，31 瀬木

F　人口論，社会学，心理学，教育学，世論調査について

1 佐藤，2 寺尾，8 島津，9 柴田，10 牧田，11 青盛，12 浅野，14 兼子，15 北原，22 林，23 パッシン，26 鈴木，27 黒田，46 小山，50 水野

G　数理などについて

1 佐藤，5 米田，6 河田，7 小川，22 林，28 小河原，34 田島，47 北川，48 坂元，49 松下，50 水野，（物理：33 伏見）

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

人　名　索　引

○話し手，＊研究分担者，数字は関係の巻

ア ○青盛和雄（11）
○浅野忠允（12）
○安藤次郎（32）
イ ○伊大知良太郎（36）
五十嵐光男（51）
石橋　守（18）
泉　弘志（51）
伊藤陽一（37,54）
ウ ○上杉正一郎（37）
内海健寿（11）
○内海庫一郎（53-54）
浦田昌計（51）
エ ＊江見康一（36）
オ ○大橋隆憲（40,41,51）
＊大屋祐雪（19,32,53,54）
岡崎陽一（27）
＊丘本　正（47）
岡本英典（14）
○小川潤次郎（7）
○小河原正巳（28）
奥野定通（4,16,17,25,44,45）
長田光洋（18）
○小田原登志郎（44）
カ ○兼子　宙（14）
○加納克巳（13）
○河合三良（16）
川口清史（51）
○河田龍夫（6）
キ 岸　啓二郎（18）
キ 喜多克巳（20）
○北川敏男（47）
○北原一身（15）
木下　滋（51）
○木村太郎（53-54）
ク ○久我通武（52）
○黒田俊夫（27）
コ ○郡　菊之助（41）
○後藤正夫（45）
駒沢　勉（13,22）
○小町喜男（13）
○小山栄三（46）
○近藤康男（20）
桜本　光（35）
○坂元平八（48）
＊坂元慶行（19,22,32,53,54）
佐藤　博（53）
○佐藤良一郎（1,5）
○鮫島龍行（43）
シ ○柴田銀次郎（40）
○柴田　武（9）
○島津一夫（8）
○嶋本　喬（13）
清水一郎（10,12,15,23,46）
ス 鈴木義一郎（28,34）
○鈴木　清（26）
＊鈴木雪夫（49）
○鈴木諒一（35）
砂田吉一（42）

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

セ ○瀬木三雄（31）
ソ ○曽田長宗（30）
タ ○高木秀玄（24）
○高橋正雄（19）
○田島一郎（34）
＊竹内清（39）
種村正美（33）
田沼肇（37）
ツ 辻博（3）
○辻岡克彦（13）
テ ○寺尾琢磨（2）
ト 豊田尚（20,21,52）
ナ ○中川友長（21）
中西尚道（46）
奈倉道隆（51）
ニ ＊西平重喜（1,5,6,8,10,22,23,26,48,49,50）
ノ ＊野沢正徳（51）
野村良樹（40,41,51）
野元菊男（9）
ハ ○パッシン（ハバート）（23）
八田英二（3）
浜田文雄（24）
林知己夫（22）
ヒ 樋口伊佐夫（33）
＊広田純（37,38,48）
フ ○伏見康治（33）
＊藤本潔（7）
○古川俊之（13）
マ 前田正久（29,30,31）
○牧田稔（10）
○正木千冬（25）
○＊松下嘉米男（1,5,6,49）
＊松田芳郎（39）
松村一隆（41）
○丸山博（29）
ミ ○水野担（50）
＊三猪信邦（4,16,17,18,25,37,38,41,43,44,45）
○美濃部亮吉（4）
ム ○宗藤圭三（3）
モ ＊森博美（18,19,32,43,53,54）
○森田優三（39）
ヤ 安川正彬（2）
○柳川洋（13）
○籔内武司（41）
○山田勇（42）
山田耕之助（37）
○山中誠之（18）
＊山元周行
ユ ○杠文吉（17）
ヨ 吉田忠（51）
○米沢治文（38）
○米田桂三（5）

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

各　巻　の　概　要

以下に各巻の概要をとりまとめた。概要は聞き手によって書かれたものである。

本巻（第１～５４巻）も，以下のように手書きされている。

話し手，聞き手の略歴なども概要に示されている。現職はインタビュー当時のものである。なお，聞き手で，現在統計に関係のない方の経歴を追加しておく。

奥野定通（４，６，17，25，44，45巻）：統計基準部から東京都庁に入られ，元東京都中央図書館長

前田正久（29，30，31巻）：厚生省大臣官房統計調査官を最後に退官され，現在，西武オールステイト生命参与

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

1巻　佐藤良一郎

東京教育大学教授などを経て、現在明星大学教授

聞き手：西平重喜（統数研）、松下嘉米男（帝京大）

1980年10月24日、31日、11月14日、統計数理研究所にて。

数学出身の統計学者の最長老。その「数理統計学」培風館は、日本における本格的な、数理統計学の最初の本ということができ、その影響力は大きい。先生は教育評価の問題から統計に関心を持たれた。また戦争中の弾丸の品質管理、統数研の発足、日本統計学会の初期、数理系の統計学者などに関するお話を承った。

2巻　寺尾琢磨

慶應義塾大学教授を経て、現在慶應義塾大学名誉教授

聞き手：安川正彬（慶應義塾大学教授）

1980年10月20日、11月10日、17日、慶應義塾大学にて。

統計学をドイツ、フランスで学び、昭和7年に帰国して以後、慶應義塾大学で統計学を担当された。戦後は統計の分野とともに、人口の分野での活躍が大きい。

今回は日本における統計学発達前史を語っていただいた。わが国に統計学が福沢諭吉を通じて導入された経緯から始まり、当時の日本政府が統計を行政機構に組入れていった経過を語られたあと、大学での統計学の研究・教育の実際を、エピソードをまじえて話していただいた。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

3巻　宗藤圭三

同志社大学教授、京都産業大学教授などを経て、現在両大学名誉教授。

聞き手：辻博（同志社大学）・八田英二（同志社大学）

1980年10月29日、同志社大学にて。

わが国統計学界の最長老。日本統計学会創立の発起人の1人。「統計学原理」（弘文堂）で提唱された「飛躍の原理」は、統計学の基本概念である「大量観察」の概念を認識論的に明らかにしたものであり、「統計哲学」の原型といえるであろう。伺ったお話の内容は、先生の若き日の学問の方向、水準、および日本統計学会設立の事情また昭和初期の物価指数・生計費指数などとの関わりなどを主としたものである。

4巻　美濃部亮吉

統計委員会事務局長、統計委員会常任委員、行政管理庁統計基準部長、東京教育大学教授、東京都知事を経て、現在は参議院議員。

聞き手：三潴信邦（筑波大学）、奥野定道

1981年1月22日、参議院議員会館にて。

大内兵衛氏（統計委員会委員長）に協力し戦後の統計制度の再建につくした。統計法の制定、統計報告調整法の制定、各省庁の統計行政の調整など、当時の統計委員会と各省庁間の問題のとりまとめ役として活躍。また、日本経済、世界経済の現状分析に統計を利用した著作も多い。統計学者としてではなく統計利用者の立場から統計制度の民主的再建にかかわった話をうかがった。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

5巻　米田桂三

海軍経理学校、横浜市立大学、日本工業大学教授を経て定年。

聞き手：西平重喜（統数研）、佐藤良一郎（明星大）、松下嘉米男（帝京大）

1980年11月19日、統計数理研究所にて。

京大数学科のご出身なので、京大の諸先生についてのお話、海軍経理学校時代のご経験、安川数樹先生について、教育面でのお話などをうかがった。

6巻　河田龍夫

第一生命、統計数理研究所、東京工大を経て、現在、慶應大学教授。

聞き手：西平重喜（統数研）、松下嘉米男（帝京大）

1981年1月20日、統計数理研究所にて。

東北大学のご出身で、まず東北大学のようすを伺った。戦争中の統計学者の活躍、それに関連して、統計数理研究所の創立についてのご奮闘、戦後のアメリカの研究者との交流など、多面的なお話をうかがうことができた。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

7巻　小川潤次郎

統計数理研究所部長、大阪大学助教授、ノースカロライナ大学教授（米国）を経て、現在カルガリ大学名誉教授（カナダ）。

聞き手：藤本熙（統計数理研究所）

1981年2月5日、19日、統計数理研究所にて。

多変量解析及び実験計画法の研究にめざましい業績のある権威。最近の著書に、"Statistical Theory of the Analysis of Experimental Designs"（1973）, Marcel Dekker. INC. New York がある。大阪大学に在職当時から一貫して、統計の専門教育確立を主張し、大学に統計学科を設立することを熱心にすすめたが、残念ながら今迄成功しなかった。昭和56、57年の日本統計学会会長。

8巻　島津一夫

国立教育研究所、横浜市大、立教大学を経て、現在、大東文科大学教授。

聞き手：西平重喜（統数研）

島津さんは東大の心理学出身で、戦前の教室の雰囲気からはじめ、陸軍での適性検査などについての経験をうかがった。島津さんは柴田武氏（9巻）、林知己夫氏また野元菊雄氏（9巻）、西平などとともに、読み書き能力調査、言語学の社会心理的研究などに従事された。なお心理学研究の現況についてのご批判も承った。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

9巻　柴田武

東京大学文学部教授などを経て、現在埼玉大教授。

聞き手：野本菊雄（国立国語研究所）

1981年1月21日、統計数理研究所にて。

日本における社会言語学の本当の意味での創始者であり、現に中心的存在である。社会言語学での数量的・統計的処理の面の草創期について、ご自身の参加されたいろいろの調査での体験を中心に話していただいた。聞き手は話し手の下でこれらここで話題となった調査に参加したものである。具体的には、1948年の日本人の読み書き能力調査のことを主体に、その後の国立国語研究所草創時代の言語の社会調査のことが語られている。内容は49ページの分量に整理されている。

10巻　牧田稔

海軍技術研究所、輿論科学協会理事長

聞き手：西平重喜（統数研）、清水一郎（毎日新聞世論調査部長）

1981年2月3日、輿論科学協会にて。

牧田さんも東大心理学の出身で、まず心理学の先生のお話からうかがった。学徒出陣直前に当時、海軍の技研におられた兼子宙氏（14巻）の下で、適性検査などを研究された。そこで重因子分析法により、実際に計算をされたが、タイガー計算機で400項目の相関、約8万の計算をされた。なお、戦後は輿論科学協会の創立当初からの中心人物で、世論調査、市場調査などの研究と実施に当たられている。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

11巻　青盛和雄

広島大学教授を経て、現在広島経済大学教授。

聞き手：内海健寿（会津短期大学教授）

1980年11月11日、12日、広島県社会福祉会館にて。

明治、大正、昭和戦前期の社会統計学の権威者。京都帝大の財部静治博士の高弟である人口統計家。青盛先生は、私の旧制広高の先輩である。先生の『人口学研究』（1944年）は、日本の人口統計学の学史的背景、ハンセンと静止人口理論の問題、グラント、ジュースミルヒの人口統計論を解明し、その原則を日本人口現象へ適用しようと試みた古典である。財部統計学の特性、原爆被災人口調査、国勢調査論、出生性比研究、舘稔氏、川上理一氏、人口論や現代人口統計研究への批判を聞いた。

12巻　浅野忠允

国立世論調査所から（社）中央調査社事務局長を経て、（社）新情報センター会長、（株）内外ニュース社長。

聞き手：清水一郎（毎日新聞社世論調査部長）

1981年1月27日、新情報センターにて。

終戦直後の1945年11月、小山栄三先生とともに情報局に設置の世論調査課に迎えられた。以来、1954年の国立世論調査所廃止まで、政府の世論調査業務にたずさわってこられた。情報局―内務省―内閣審議室―国立世論調査所と推移した政府の世論調査組織とそこでの仕事などについて、ご体験を語っていただいた。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

13巻　医学グループ

他のインタビューと少しちがって、医学関係のつぎの方々に、医学と統計学の関係についてお話し願った。

柳川洋（自治医科大学教授）

古川俊之（東京大学教授）

小町嘉男（筑波大学教授）

嶋本喬（筑波大学助教授）

加納克巳（筑波大学助教授）

辻岡克彦（大阪大学医学部助手）

聞き手：駒沢勉（統計数理研究所）

1981年2月5日、統計数理研究所にて。

14巻　兼子宙

人事院能率局長、広島大・早大教授、雇用促進事業団職業研究所所長などを歴任、現在同研究所顧問。

聞き手：岡本英雄（上智大学）

1981年1月20日、人枝にて。

産業心理学の日本における開拓者であり、心理学に統計的手法を導入した主要な人の1人。戦前の海軍における統計的手法を用いた能率、作業研究、アカデミックな分野における海外（とくにアメリカ）の統計学の心理学の導入のプロセス、戦後の産業心理学と統計との関連などについてお話を伺った。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

15巻　北原一身

国立世論調査所から（社）中央調査社常任理事集計部長など。現在、日本チャリティ・プレート協会常務理事。

聞き手：清水一郎（毎日新聞世論調査部長）

1981年1月14日、22日、日本チャリティ・プレート協会にて。

調査の第一線を退かれた現在も、日本マーケティングリサーチ協会顧問、東洋大経営学部講師、統計研修所講師などとして、世論調査、市場調査のあり方について独自の見識をもたれる。国立世論調査所時代の人と業務、調査の諸問題、倫理綱領、データバンクなど広範囲にわたってご意見をうかがった。

16巻　河合三良

統計委員会事務局、行政管理庁統計基準局企画課長、同庁行政管理局長、同庁事務次官を経て、現在は国際開発センター理事長。

聞き手：三潴信邦（筑波大学）、奥野定道

1981年3月10日、国際開発センター理事長室にて。

統計委員会の発足当初から大内兵衛、美濃部亮吉、山中四郎の諸氏を補佐して統計制度の再建業務に努力。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

17巻　杠　文吉

統計委員会事務局総務課長、科学技術庁原子力局長、同庁振興局長を経て、現在は岩尾エンジニアリング相談役。

聞き手：三潴信邦（筑波大学）、奥野定道

1981年3月13日、岩尾エンジニアリング役員室にて。

統計委員会事務局時代、大内兵衛、美濃部亮吉氏らを補佐して統計制度の再建に努力。とくに統計法、統計報告調整法の制度業務に関与した。また、全国統計協会連合会の設立に貢献した。

18巻　山中誠之

東京都目黒区区民部統計係長を経て、現在統計調査員。

聞き手：石橋守（大田区統計係長）、三潴信邦（筑波大学）、長田光洋（東京都職員研修所）、森博美（法政大学）、岸啓二郎（筑波大学大学院）

1981年3月17日、統計数理研究所にて。

区の統計職員として長年にわたり調査員の指導にあたり、退職後は工業、商業統計をはじめとする国の統計調査の調査員として、文字通り調査の第一線で活躍してきた。長年の実査経験をふまえた統計実務者サイドからのわが国統計の発達史ならびに現状における問題点を中心にお話を承った。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

19巻　高橋正雄

九州大学教授などを経て、現在東北学院大学教授

聞き手：大屋祐雪（九州大学教授）、坂元慶行（統計数理研究所）、森博美（法政大学助教授）

1981年2月7日、統計数理研究所にて。

1901年仙台市に生まれる。1925年東京帝国大学経済学部卒業後助手を経て1928年九州大学法文学部助教授に就任。1938年人民戦線事件で逮捕。1946年九州大学復帰。GHQ嘱託。大内兵衛氏の下で戦後日本統計制度の再建に従事、後統計委員会委員。1965年九州大学定年。現在東北学院大学教授。お話の主たる内容はGHQ時代からの日本統計制度再建事情に関するものである。

20巻　近藤康男

東京大学教授、武蔵大学教授を歴任。この間農林省統計課長、統計調査局長を経験。現在退任。

聞き手：喜多克己（法政大学教授）、豊田尚（中央大学教授）

1981年2月5日、26日、近藤宅にて。

農業経済の実証的研究から農林統計に関心をもち、積極的に発言されるようになった経過、農林省においては、戦前はいわゆる近藤改正を実施し、戦後は作物報告組織の創設に当られたさいの、農林統計についての先生の考え方を中心にお話をうかがった。農林統計に関する先生の多くの著書、論文にもみられないいろいろな点をうかがうことができたと思う。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

21巻　中川友長

内閣統計局、厚生省人口問題研究所を経て、東京大学教授、中央大学教授、駒沢大学教授を歴任。現在退任。

聞き手：豊田尚（中央大学教授）

1981年3月23日　中川宅にて

相対性理論における数学、家計調査の実施、国富・国民所得の推計、価格変動の実証的研究、将来人口の推計、計算機械についての着想、人間の意識の問題等、多方面にわたってお話をうかがった。対談に先立ち、上記の多くの分野に関連して渉猟された外国文献のリストを予め用意しておいて、それらを対談の中で一々刻明にあげて下さった点参考になると思う。

22巻　林知己夫

昭和21年統計数理研究所に入り同研究所で終始研究活動を続け、現在統計数理研究所長。

聞き手：駒沢勉、坂元慶行、西平重喜（いずれも統計数理研究所）

1980年12月24日、1981年1月26日、統計数理研究所にて。

日本の数理統計学界の重鎮。1981年紫綬褒章受賞。数量化理論の開発を中心に、自然科学や人間科学等幅広い分野で活躍。サンプリング、社会調査、数量化理論の開発とその応用などそれらの草創期からの事情、また戦後の日本の統計学界の動向についての話題をうかがった。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

23巻　ハーバート・パッシン

連合軍最高司令部民間情報局社会世論研究課、現在コロンビヤ大学教授。

聞き手：西平重喜（統数研）、清水一郎（毎日新聞世論調査部長）

1981年1月9日、永田町のパッシン事務所にて。

パッシン教授はアメリカ陸軍の日本語学校を卒業され、占領軍の一員として来日されたが、戦後の日本で世論調査を普及することに尽力された。その当時のお話のほかに、パッシンさんがアメリカで勉強された頃の、心理学者や、統計学者についても伺うことができた。

24巻　高木秀玄

関西大学経済政治研究所長。同大学経済学部教授。

聞き手：浜田文雅（慶應大）

1981年8月3日、関西大学経済政治研究所にて。

京都大学の蜷川虎三教授（当時）の研究室で勉強された後、関西大学経済学部（母校）で教鞭をとり、一時ロンドン大学でR. G. D. アレン教授の下で数理経済学の研究もされた。帰国後は、社会統計・経済統計など幅広い研究を進められた。談話の内容は、主として蜷川統計学の遍遷および経済統計研究会の発足以来の動向について、さらに現代統計学と蜷川先生の統計学における弾力性のある考え方を通じて、現代統計学、特に経済学の分野に関するそれの在り方にまで及んだ。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

25巻　正木千冬

統計委員会常任委員、商工省調査統計局長、参議院予算専門員、国学院大学教授、鎌倉市長の職につく。

聞き手：三潴信邦（筑波大学）、奥野定道

1981年8月24日、正木千冬氏自宅にて。

統計制度の再建にあたって大内兵衛、美濃部亮吉、山中四郎、内藤勝の諸氏とともに活躍した。また、商工省（現在の通商産業省）の調査統計局長時代は工業統計、商業統計の発展につくした。一時は、森田優三内閣統計局長補佐のため統計局次長をつとめた。官庁統計家と統計研究者の交流の必要性を説き、そのための組織、統計懇話会を作った。革新市長として地域統計を活用し地方行政の民主化を試みた。1982年他界された。

26巻　鈴木清

東京教育大学教授を経て、田中教育研究所長

聞き手：西平重喜（統計数理研究所）

1981年11月27日、田中教育研究所にて

佐藤良一郎先生が教育測定から統計の研究をはじめられたので、先生のご紹介により、教育測定、評価、知能検査などについて、故田中寛一先生と統計とのかかわりあいを中心にお話をうかがった。

1982年秋、おなくなりになった。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

27巻　黒田俊夫

厚生省人口問題研究所長を経て、現在日本大学教授。

聞き手：岡崎陽一（厚生省人口研所長）

1981年1月6日、19日、統計数理研究所にて。

永年、厚生省人口問題研究所に勤務し、所長をつとめた経験もある、日本で有数の人口学者。昭和30年に人口高齢化問題を、また40年代にはUターン現象を指摘するなど、先端的な人口問題をはあくして学界に貢献した。戦後まもなく来日したアメリカの人口学者アイリーン・トイバー博士、ハウザー教授など外国の人口学者との交流が多く、また国連人口委員会日本代表をつとめた。主として戦後日本の人口問題の展開と人口研究史について話をうかがった。

28巻　小河原正己

東京女子大学教授などを経て、千葉商科大学教授。

聞き手：鈴木義一郎（統計数理研究所）

1981年1月16日、小河原宅にて。

第2次世界大戦の終戦前頃の、研究資料が大幅に不足した時代に、苦学・独学された話を中心にうかがった。また、気象研究所時代に苦労された、微分方程式を使った天気予報の方式などについても話して頂いた。晩年になって女子教育に情熱を傾けながらも、時系列解析を中心とする研究論文を多数発表され、国内・外で活躍された。1982年12月27日、他界された。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

29巻　丸山博

大阪府、厚生省、大阪大学医学部教授を経て、その後もライフ・サイエンスに関する研究を続けられている。

聞き手：前田正久（西武オールステート生命・参与）

1981年9月21日、22日、箕面市の御自宅にて。

乳児死亡の研究は、昭和12年実際に岸和田に移り住み、地域の中に身をおきながら調査を実践、アルファ、ベータ、ガンマ、デルタ・インデックスを発表。その後厚生省に転じ、人口動態統計に意をそそがれ（その時代に聞き手は御指導をうけた）、阪大医学部時代から今日まで森欧外、小島勝治の業績をはじめとする医学史の研究ならびに乳児死亡統計の研讃にいそしまれている。その間における諸先覚とのかかわり合いをお話し願った。

30巻　曽田長宗

台湾総督府、厚生省統計調査部、医務局長、国立公衆衛生院長などを歴任、現在、厚生統計協議会会長。

聞き手：前田正久（西武オールステート生命・参与）

1981年3月22日、4月8日、田園調布の御自宅にて。

労働科学研究所時代に郵便現業員についての体力統計を手がけられ、台湾の中央研時代は微生物、血清医学面に幾多の統計手法を適用、ジョンス・ホプキンス大留学中にジョン・リード、マーガレット・メレルの知遇をうけ、戦後は人口動態統計をはじめ数多くの衛生統計体系を確立された。聞き手は統計調査部時代に技官として御薫陶をうけた。御研究の流れを長岡での生い立ちから順を追ってうかがった。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

31巻　瀬木三雄

東大医学部、厚生省母子衛生課長、東北大医学部教授を経て、当時、瑞穂学園理事長。

聞き手：前田正久（西武オールステート生命・参与）

1981年3月9日　名古屋瑞穂区の研究室にて。

東大医学部の学生時代、わが国で初めての山岳遭難の統計的観察を手がけられ、昭和10年には今日再び著名となった「瀬木の帽子」の論文を発表、昭和17年には妊産婦手帳（昭和22年に母子手帳）を発足させて、母子衛生統計の基礎をきずかれ、結核全盛期に今日のがん予防の知見のもとにがん統計に手をそめられ、東北大時代からがん登録、地域別年齢別部位別がん統計の作成などの業績を残された。このインタビュー後の翌年になくなられた。

32巻　安藤次郎

金沢大学教授を経て、現在城西大学教授。

聞き手：大屋祐雪（九州大学教授）、坂元慶行（統計数理研究所）、森博美（法政大学助教授）

1982年12月13日、私学会館にて。

社会統計の理論家。ピアソンなどを通して科学論に関心を持つ他、社会主義中国の統計（学）の優れた紹介者としても知られている。学生時代における統計学との出会い、戦前、戦中、戦後を通じての社会運動とのかかわり、GHQとわが国の統計制度再建、経済統計研究会の学術活動の回顧ならびに展望などについておうかがいした。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

33巻　伏見康治

阪大教授、名大プラズマ研所長を経て、日本学術会議会長

聞き手：樋口伊佐夫（統数研）、種村正美（統数研）

1981年2月14日、日本学術会議会長室にて

戦中に出版された名著"確率論及統計論"の著者、また寺田寅彦先生に直接師事された方でもあるので、当時としては驚くべきほど、斬新で該博な内容の著書をあらわされた背景、および、寺田先生の統計的関心の有様などをうかがった。

34巻　田島一郎

慶應義塾大学教授を経て、現在洗足学園短大学長。

聞き手：鈴木義一郎（統計数理研究所）

1981年1月8日、田島宅にて

戦後の中学・高等学校の「数学」の教科書に、確率や統計の概念をどのようにとり入れるべきか、教科書問題でいろいろ活躍された苦労話を中心に承った。独得の"田島節"による旺文社のラジオ講座は一世を風靡し、また明解な解説書を多数執筆され高等数学の大衆化に活躍されている。大の巨人ファン、酒は勿論、スキーやスケートまで物する江戸っ子。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

35巻　鈴木諒一

慶應義塾大学商学部教授。

聞き手：桜本光（慶應義塾大学）

1981年11月14日、慶應義塾大学にて。

36巻　伊大知良太郎

一橋大学教授、同経済研究所長を経て、現在東海大学経済学部教授。

聞き手：江見康一（一橋大学経済研究所）

1982年5月11日、統計研究会にて。

経済統計、とくに経営統計の草分け的存在。『経営統計』（巌松堂）など関連著編書が多い。その後物価指数論、『デフレーター』（勁草書房、のち英文で刊行）などを経て、統計データのもつ社会経済的な意味づけに及ぶ。藤本幸太郎門下として、統計学会の創設時から関与し、とくに戦後、森田優三統計局長（当時）とともに学会再建に尽力。その頃のエピソード、一橋大学と統計学会とのかかわりなどを中心に話を承る。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

37巻　上杉正一郎

商工省調査統計局、大阪市立大学、東京経済大学などを経て、現在東京経済大学名誉教授。

聞き手：広田純（立教大学）、三潴信邦（筑波大学）、田沼肇（法政大学）、山田耕之介（立教大学）、伊藤陽一（法制大学）。

1981年11月22日、12月12日、26日、上杉宅にて。

上杉正一郎先生のお仕事は、マルクス主義の立場にたつ統計研究の一つの典型であって、そのブルジョア統計批判は、その後の統計学研究に大きな影響をあたえた。インタビューは、まず先生のご経歴について詳しくうかがい、ついでお仕事について、ご意見をうかがったり、みんなで討論したり、という形で進められた。

38巻　米沢治文

東北帝国大学法文学部卒業後、一貫して東北大学に在職、東北大学教授を経て現在は東北学院大学教授。

聞き手：三潴信邦（筑波大学）、広田純（立教大学）

1982年3月29日、東北学院大学研究室にて。

有沢広巳氏に師事して以来統計学研究の道を歩き続ける。米沢統計学の特徴は、基本的には統計学を社会科学方法論として位置づけるが、新しい研究分野にも常に着目して次々と業績を重ねている。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

39巻　森田優三

総理府統計局長、一橋大学教授などを経て、現在亜細亜大学教授。

聞き手：竹内清（東北大学教授）、松田芳郎（一橋大学教授）

1981年8月21日、12月8日、日本統計協会にて。

経済学系出身の統計学者中の最長老。日本統計学会の創設、発展に中心的な役割を果してこられた。「統計概論」（昭7）は洛陽の紙価を高めた名著で、その後版を重ね今日に至っている。先生が統計学を志された契機、日本統計学会創設当時の御苦心、文部省在研として渡欧された頃の欧米の統計学界の状況、戦争中の研究上の諸困難、戦後の統計行政確立に果された役割、今後の学会発展の方向についてのお考え等についてお話を承った。

40巻　柴田銀次郎

神戸大学経済経営研究所長、関西大学商学部教授、長崎県立国際経済大学教授、阪南大学教授を歴任。

聞き手：大橋隆憲（京都大学名誉教授）

1977年10月29日、ホテル阪神（大阪市）にて。

アメリカの経済統計学を日本人として研究した最初期の学者。1920年代半ばアメリカの景気予測、物価指数、など新しい実証研究方法の研究と紹介に功績をあげ、1930年代には、わが国で初めて貿易統計の理論を展開し、古くから作成されていた日本の貿易統計の作成方法論と利用方法について開拓者的業績をあげた。

（注）この巻は既に録音されていたテープから速記をおこした。野村良樹氏が校閲された。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

41巻　郡　菊之助

名古屋高等商業学校教授を経て愛知大学教授（当時）。

聞き手：大橋隆憲（日本福祉大学）、三潴信邦（筑波大学）、簸内武司（岐阜経済大学）、松村一隆（愛知大学）ほか。

1977年6月11日、愛知大学名古屋校舎にて。

中京地区を中心とした同好の志が集って、戦前、大正・昭和期に名古屋に居して統計学の最先端で御活躍された先生に当時の問題意識や、統計学についての見解などを中心にお話をうかがった。

(注)　この巻は、既に録音されていたテープから速記をおこし、話し手と、松村氏が校閲された。

42巻　山田　勇

一橋大学教授、一橋大学経済研究所長を経て、現在、亜細亜大学経済学部教授。

聞き手：砂田吉一（創価大学経済学部教授）

1982年2月17日、亜細亜大学1号館、山田勇教授研究室にて。

統計学会草創の当時から学会発展のために御尽力下され、今日の日本統計学会の隆盛をみるに到った最功労者であります。主として統計学会創立当所の裏方の御苦労話と今後の発展のためのキイポイントは何か、ということを卒直にお尋ねし、お話しを承りました。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

43巻　鮫島龍行

内閣統計局の各課長、日本統計協会専務理事を経て現在は同協会理事。

聞き手：三潴信邦（筑波大学）、森博美（法政大学）

1982年10月27日、日本統計協会にて。

森田優三統計局長のとき入局、各課長を歴任。日本統計協会の機関誌『統計』の編集を刷新し、啓蒙誌としての役割が定着するようになった。一方、『統計日本経済』（筑摩書房）を相原茂氏とともに刊行、日本の統計調査史研究に大きな礎石をきづいた。

44巻　小田原登志郎

戦後の森田優三統計局長のあとをついで統計局長をつとめた。現在は治水学院院長。

聞き手：三潴信邦（筑波大学）、奥野定道

1982年2月18日、統計数理研究所にて。

統計制度の再建が一応軌道にのり、統計学者森田統計局長時代もすぎ、各省庁の統計部局長は次第に一般行政職の人が就任するようになった。小田原統計局長の誕生もそうした一般的傾向の一つのあらわれである。

しかし、小田原氏は局長就任前に統計制度研究のためアメリカ合衆国に派遣されライス博士の指導も受け、統計局長としての任期も比較的長期であった。したがって統計行政に精通していた一人である。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

45巻　後藤正夫

統計委員会事務局、行政管理庁統計基準局長、大分大学学長経て、現在は参議院議員。

聞き手：三潴信邦（筑波大学）、奥野定道

1981年1月31日、参議院議員会館にて。

大内兵衛、美濃部亮吉氏を補佐して統計制度の再建に当る。それまでは宮城県統計課長として自治体サイドからの統計の改善発展に寄与。とくに、県統計協会を設定しそれを全国組織としての全国統計協会連合会にまで発展させた。今日、中央省庁と地方自治体とが一体となって統計行政が行われているがその裏方として全統連の役割は大きい。この組織の生みの親の一人である。

46巻　小山栄三

国立世論調査所長、立教大学教授などを経て、現在、日本世論調査協会会長。

聞き手：中西尚道（NHK放送世論調査所担当部長）、清水一郎（元毎日新聞社世論調査部長）

1982年8月2日、日本新聞協会会議室にて。

国立世論調査所長ならびに日本世論調査協会会長として、日本の世論調査の発展に貢献した人として選んだ。戦後、世論調査がアメリカ軍の指導で日本に導入されたいきさつと、それを指導した人たち。日本で世論調査を始めたころの苦労や、国立世論調査所の仕事などを中心に、初期のころの日本の世論調査事情とその背景についてうかがった。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

47巻　北川　敏男

九州大学教授を経て、現在富士通・国際情報社会科学研究所所長

聞き手：丘本正（大阪大学）

1982年7月22日、8月25日、富士通シスラボにて。

日本に推測統計学を導入し、統計科学研究会と統計数理研究所の設立の主唱者であり、著書「統計学の認識」によって日本における斯学の基礎を作られた方。小樽での少年期、二高と東大の学生時代から、大阪大学と九州大学における本格的な研究、日本学術会議会員としての活躍、Fisher, Mahalanobis, Wiener などとの交友、情報科学への貢献など広汎な話題の後に、後輩へ贈る言葉をもお聞きした。

48巻　坂元　平八

第一生命、統計数理研究所、神戸大学、慶應大学を経て、武蔵工業大学教授。

聞き手：西平重喜（統計数理研究所）、広田純（立教大学）。

1982年10月16日、統計数理研究所にて。

戦争中および統計数理研究所の創立期の統計の実際問題についてから話がはじまり、戦後の経済学者との交流や貢献について語られている。数学出身者で、経済統計や、品質管理についての研究を通じてのユニークなお話である。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

49巻　松下嘉米男

統計数理研究所第一研究部長を経て、現在帝京大学教授、統計数理研究所名誉所員。

聞き手：鈴木雪夫（東京大学）、西平重喜（統数研）

1982年10月1日、統計数理研究所にて。

東大数学科助手から創設時の統計数理研究所の所員となる。独自のaffinity概念を用いた統計的決定理論などわが国の統計理論の発展に貢献。また、永年にわたり、Annals of Statistical Mathematics の chief editor として国際的に著名である。代数学から統計学に専門を変えたいきさつ、統計数理研究所の創設期および戦後における種々の出来事やエピソード、ご自身の研究、アナルス編集、外国の著名な統計学者との交際などを承った。

50巻　水野坦

統計数理研究所、総理府統計局参事官を経て、日本工業大学教授。

聞き手：西平重喜（統計数理研究所）

1981年11月18日、1982年2月23日、3月9日、9月17日、総理府統計局にて。

終戦後、統計数理研究所に勤め、とくに世論調査など社会調査の実施に貢献した。その後、総理府統計局で各種統計調査の正確性を保つことにつくし、またECAFE、FAOなどの職員として、海外での統計調査への従事の経験も長い。さらに沖縄の復帰の前、後を通じて、沖縄の統計行政の編成にもつくされた。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

51巻　大橋隆憲

京都大学経済学部教授、同学部長、日本福祉大学教授を経て、現在花園大学教授。

聞き手：野村良樹（大阪市大）、野沢正徳（京大）他7名。

1982年9月23日、大橋先生自宅にて。

インタビューをおこなった9名は全員門弟で、先生の研究された各分野を継承する者である。

わが国の社会統計学派の最もすぐれた理論的指導者。先生の研究分野は、大別して、社会科学の方法論としての統計学の体系を構築すること、およびその理論をふまえて、日本の当面する現実問題を解明すること——例えば階級構成の実態と推移、社会福祉とりわけ障害者福祉問題——であるが、これら広汎な問題について話された。

52巻　久我通武

農林省統計調査部長、東北農政局長。現在退任。

聞き手：豊田尚（中央大学教授）

1982年1月25日、2月4日、農林統計協会にて。

農業問題に関心をもち、東大の農業経済学校に学んだ学生時代から、農林省を退官後のアジア経済研究所理事の時代まで、公的生涯において経験されたもろもろの思い出をうかがった。その中で、昭和10年代から40年代まで20余年にわたって、農林省統計官、統計課長、統計調査部長として農林統計発展の中心的役割を果されたさいの思い出、とりわけ、戦後食糧生産の統計をめぐってのGHQとの折衝、作物報告事務所の創設、FAOの諮問委員としての活躍等が対談の主要内容であった。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

53、54巻　内海庫一郎、木村太郎

内海：北海道大学教授を経て、現在武蔵大学教授。

木村：国学院大学教授。

聞き手：大屋祐雪（九州大学）、伊藤陽一（法政大学）、坂元慶行（統計数理研究所）、森博美（法制大学）。

1981年12月12日日本統計研究所、12月14日武蔵大学、1982年3月20日法政大学にて。

蜷川統計学の継承者でありわが国における社会統計学の指導的理論家。師蜷川虎三とそのゼミの印象、戦前、戦中、戦後のお2人の学問的・社会的遍歴、などを中心にそれぞれ内海理論、木村理論誕生までのいきさつ、さらには統計学の現状などについてもおうかがいした。

53巻はお2人一緒、54巻は別々のインタビューである。

別巻　この報告書を別巻とした。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

研究代表者のあとがき

1. ある出版関係の人が、学界の長老のインタビューを弟子にさせ、長老の伝記を通じて、その学問の発展を記録するシリーズを考えました。まず私が恩師のインタビューをしたのですが、この企画は中止されてしまいました。私はこの経験にもとづき、統計学の各分野で、このようなことが出来ないかと考え、親しい方たちと相談をし、実行に移されることになりました。

2. 科学研究費は1979(昭和54)年度から申請しましたが、1980年度から認められました。ところがちょうど同じ時期の、1981年に日本統計学会が創立50周年を迎え、私がその記念事業企画実行委員会長に指名されました。そしてこの研究分担者中、江見、大屋、鈴木、三潴氏もその委員となりました。この研究とこの事業とは直接関係はありませんが、その主旨からいっても、また両者の人的構成からいっても、単に偶然の一致ということはできません。記念事業のうちの3組6先輩による対談集「日本の統計学五十年」(東京大学出版会、1983年4月刊行予定)も、この研究のエクステンションといえることでしょう。なお森田優三先生の「統計遍歴」(日本評論社)も、同じ頃出版され、大変参考になりました。

3. 話し手に多少バイアスがあるかもしれません。特に初年度は、準備にてまどり、私の関係の世論調査や社会調査の方をインタビュー致しました。

4. 研究分担者は、私の身近な方にお願いしましたが、もっと多くの方にご依頼すべきでした。たとえば豊田尚氏、野村良樹氏にはずいぶんご迷惑をかけました。

25字×28行

統計数理研究所学術研究リポジトリRISM

研究分担者以外の多くの聞き手の方にも、十分な謝意を表わせず申し訳ありません。

研究分担者の皆さんのバック・アップは、代表者として大変ありがたいものでした。とくに初年度は坂元慶行氏が庶務万般を切りまわして下さいました。三猪信邦氏とは何度も電話で相談をしました。最終年度には森博美氏のおかげで、この研究を完遂することができました。そして直接、間接伝えられたご激励に深く感謝致します。

宮田仁子速記事務所の皆様のご苦労も忘れることができません。

この研究の関係資料一切は、喜多克巳、森博美両氏のご厚意で、法政大学日本統計研究所に保管されることになりました。

皆さまに厚くお礼申しあげます。

5. 今後の連絡先は以下の通りです。

a. 資料について

法政大学　日本統計研究所　(森博美)

102　千代田区富士見町2－17－1

b. コピー・サービスについて

150　渋谷区広尾5－4－20　マルス

電話(03) 449－8687

c. 経過その他について(西平は統計数理研究所を退職し、4月から下記へ移ります。)

102　千代田区紀尾井町7－1

上智大学　経済学部

(自宅) 156　世田谷区桜丘3－26－21

西平重喜(研究代表者)

1983, 3, 1

25字×28行